

18 問 親や兄弟姉妹に對しての態度に變りはありませんか

計	性別		答
	女	男	
			有
			り
			無
			し
			計
三	五	三	
三	七	三	

變つた點

仲よくなった(男一四)やさしくなった(男一七)此の外特に男兒に於て親に對して遠慮勝ちになつた者(三)、町噂に(七)、素直に(五)弟や妹を大切にする様になつた者(八)等。

19 問 退園から歸つた後本人の身體や血色容子について特に
お氣付きの點はどんな事ですか

計	性別		答
	女	男	
			有
			り
			無
			し
			計
三	八	三	
三	七	三	

特にお氣付きの點

體格がよく、丈夫さうになつた(男一五)大きく伸びた(男一六)太つた(男一七)血色がよくなった(男一七)黒くなつた(女三)其他顔が變つた、ハキ／＼した、素直になつた、親切に、兄弟姉妹仲よくいたはり合ふ様になつた等。

退園後學校との聯絡

兒童が學園を退園すれば、夫れ／＼家庭に歸り多くは(卒業兒童を除く)、入園以前の學校に復歸する。故に本園は其れ等の兒童の退園後の學科成績身體狀況に就ては學校宛に報告を要求することゝしてをる、昭和三年度中本園より學校に宛てた通信數は一九九通であり、學校より學園に宛てた通信は一一三通である、其の報告の内容は次に例示する様なものであり退園後の兒童の身心狀況の大様を知るに足るものである。

第六學年〇〇〇〇(十三歳、女)

東京市明治第二小學校報告

入園前と退園後、

入園前に於ては何となく快活さに乏しく頭痛を訴へし事度々なりき、學業に於てもムラ氣多く機嫌良き時は授業中活動し一度氣分悪しき時は終日不活潑にて成績の如き常に上下の變動多かりき爲に成績も一定せざりき。

友達間に於ても氣性はげしきため眞の友達なく〇〇さんと遊ぶと『ヒツカカレルカラ』いやとの訴へを屢々耳にせり。

食物に好嫌多く母親は度々學校に來り何とかしてなほしてほしいと相談に來りし事あり食物の攝取量一定せず量少き事は親の常に心配し居たる所なり。

退園後に於て殊に目立ちたるは圓滿な心となりし事にして友人間の人望も厚く又入園前の如く學業に對してもはげしき變動なく全體として中位の程度となり、併も運動を好み快活となれり。
前學期終りに於ける保護者會に於て母親はこの頃は何でも頂き澤山食べるやうになつたと喜びに満ちてゐた。平素の缺席も少なく遠足の時には何時も元氣にて参加するやうになつた。

第六學年 ○○○○(十三歳女) 同 前

入園前と退園後

一體に丈夫となつた事 顔色も何となく元氣さうになつた事。食物の好嫌なく量の増した事などは特に目立つた所である、入園前に於ては授業中度々頭痛腹痛を訴へ早退回数も可なりあつた。

退園後は今迄に一度も斯の如き訴へなし。

學業成績は以前と同様あまり感心せず但入園前の如く苦痛らしき様子なく自發的に勉強するといふ氣分の現れて來た事は喜ぶべき事の一つ。

入園前に於ては物事兎角粗雑にて苦心せる所なりしが此の頃に於ては稍々丁寧になり言語動作等も活潑になりたり

東京府 日暮里 尋常高等小學校 報告

第六學年 ××××(十三歳男)

一、學校生活に於ける精神的方面

(1) 智的特質並學習傾向

注意力は分散的であつたのが稍々集注的となり觀察力は常識的であつたのが科學的傾向を持つ様になり、記憶力の一時的なりしも稍々論理的持續的傾向を持つて來た。

學習態度は前より姿勢、着眼等落着あり私語、手遊び等少く學習着手早やし努力永續させず疲労し易きも入園前より良し應答も明確に近く機敏となる。

(2) 情意的方面並に心性等

受動的なりしも稍々發動的となり樂天的であつたが現在も同じ衝動的、利己的なりしも協調的傾向を持つ様になり責任感が強くなり稍々規律的、自治的に活動する様になつた。

粗暴なりしも 温良となり、淡白快活質朴なる事は以前も同じ。

容姿方面では手、足、顔、衣服等清潔を重する様になり態度も前より端正となる。

二、學業成績並身體狀態

(1) 入園前と著しき變化を見ず。

茨城縣 下館 尋常高等小學校 報告

第四學年 ○○○○(十一歳女)

一、成績に就いて、

著しき進歩を認めず、併し入園前に比し思考、推理想像力増大せしを認む、従つて算術に於ても應用問題を好みこ

れが成績良好なり、綴方を好み記述する事を特に喜ぶ様になりたり。

二、身體状態に就いて

身丈に比して、體量増加せず、退園當時より却つて減じたる感あり、血色良からず營養悪しく思はる。

三、操行に就いて

學習態度不良 差出がましく落着なし。

言語、野卑、不真面目なる態度改らず。

退園當時は頗る良好と思はれしも再び前に戻りし感あり。

埼玉縣 大宮西 尋常 小學校 報告

高等科第一學年 ×××× (十四歲 男)

一、學業

入園前後の學業成績に大差なし。

修身は道德的批判力特にまさりたる様思はる。

國語の読み振りは正しくなりたり。

二、操行

入園前に比べて友人との交り廣くなり誰にも好かれる様になりたり、父母の命に従順。

常識あるは可なるも稍々其の爲めにすれからつしと思はるゝ様な冗談を口にする事多し。

世故に通じ趣味多方面なれど學習及作業に努力をなさず。

團體的犧牲的方面に於て特に著しく長ぜり。

三、身體

入園前(零三)の夏腸チブスにて入院長期缺席をなす其の後も屢々病に罹りしも退園後は頗る強壯となり肉體的作業を苦痛とする事なし。

東京市龍泉寺尋常小學校報告

第五學年 ×××× (十二歲 男)

一、入園前は毎月缺席日數多く百三十四日間で五十日の缺席ありしに比し、退園後は百四十九日間で一日の缺席なく尙本年に入りても一日の缺席もなし。

二、學業も目下智能方面に進歩しつつあり。

三、運動も進んで行ふやうになり大體に於て健全状態である。

健康相談所、府縣市等學校衛生機關との聯絡

兒童の身體的變化状態を可及的詳細に知るには常時一定の場所一定の醫師の診査を受けしむる必要がある本園に於ては昭和三年十月迄は退園兒童を昭和四、同三年四月、と六月とに横濱市南吉田小學校と本會本部事務所に集合せしめて健康の診査をなして來たが、十月よりは東京市内の兒童は東京市健康相談所東京府下の兒童は櫻楓會託兒所、同善

兒童の家庭訪問

退園兒童保護方法として最後に残るは家庭訪問である。學園教職員及び、本會職員或る時は態々或は他の用向の序を以て、退園兒童の家庭を訪問して種々兒童の日常生活を直接見聞し、健康に關する相談を受け進んでは各種の家庭問題の相談對手となつてきた、乍然、資金其他の關係上これを本年度内に於ては組織立てることが出来なかつたことを遺憾としてをる、近き將來に於ては必ずこれが實現を期して家庭訪問を中心として、退園兒童の保護にあたらんと期待して居る次第である。

學園の經費

以上述べ來つた様な事業を實施した昭和三年度の一宮學園の所要經費は次の如くである。(昭和三年度決算に依る)

俸給	一四五六二、七三
諸給	四三七七、〇〇
旅費	一〇九五、二二
雜給	二二二一、〇五
雜費	一〇〇〇、七六
備品費	八六八、六〇
消耗品費	七、〇一七、一八
通信運搬費	三七〇、九九
送致送還費	二二三、九六
醫療費	九四七、七六
修繕費	七六三、九一
兒童賄費	一一、五七五、一〇

附錄
通信文集

保 險 費
圖 書 費
農 園 費
計

三五〇.〇〇
四四七.〇七
五八九.九〇
四六,四一一.二三

一、入園許可の通知を受けた家庭より

一、入園後第一回通知の返信(一)(二)(三)

一、入園當初兄より兒童へ

一、入園當時父より兒童へ

一、來園面會後の挨拶(一)(二)

一、弟にあひに

一、家庭より學園へ

一、兒童退園の通知を受けて(一)(二)(三)(四)

一、退園兒童の學校より(一)(二)

一、兒童退園後家庭より(一)(二)(三)(四)(五)

一、退園兒童より

松宮種子

一、一宮學園の思出

長澤しづ子

小林豊

富士日出夫

岸本芳一

前田政次郎

竹田房子

末井敬之助

大屋糸子

一、退園兒童大會の感想

兒童大會の通知

工藤幸正

岡田重徳

浅野俊子

野口勢ん

島澤まき

渡邊義次

末井敬之助

まちどうしい二十六日

隣保館に行くまで

隣保館にて

二十六日の思出

以上

(入園許可の通知を受けた家庭より)

拜啓各位益々御健勝奉賀候 扱今回は不計も拙女○子貴學園入園に付種々御配慮を煩し深謝仕り候實は拙宅此四五年來經濟界の不況に連れ事毎に失敗を重ね昨年來ことに家計上の難澁を極め居り申候、從て拙女○子轉地療養を昨年來醫師の切なる勸告に接し候も其運に至らず日夜痛心の至りに候然に今回思ひがけなく御高配に預り幸ひ入園の事に相叶ひ候はゞ是正に神佛の加護各位の御同情の賜と感銘此の事に候先は右御返事旁々御願迄如斯に候

謹具

(入園後第一回通知の返信)……一

拜復

御懇書難有頂戴いたしました、親でさへ手にあまるやつかいな子供等を大勢お世話下さる御苦心いかばかりか殊に虚弱な子供等のこと故に御氣遣ひ一方ならぬこと、恐察いたします

御多忙の中から、わざわざ御懇切に種々お知らせやら御

注意やら、全く行き届いた、御心盡し親の身に泌み／＼と忝く胸に感涙の外ございませぬ。

田舎のちよ／＼や其他の肉親にあづけてもかほどに氣強い安心が得られまいと存じます。全く神様や佛様にお托けした様な氣持を感じます。貴園の御手紙に一日遅れて子供から便りが届きました。

今後は能く御注意の事項を守りまして貴園の御趣意を裏ざる様な『馬鹿親』を發揮せぬ様心懸けます

(同 上)……二

拜復 豚兒××儀安着の御報に接し有がたく拜見仕候

殊に途中での一舉一動詳細御知らせ下され、彼等が全く深く熱い御同情の懐に只管包まれ行く有様も手にとるやうに伺はれ唯々感涙の外無之候

病持つ者の誰もが持つ僻み心や意地悪も有之べく食物の好き嫌ひ寝起きの悪癖等種々御迷惑相掛け申す事の多きを豫想して甚だ恐縮心痛に不堪次第に御座候へ共何卒御賢察の上御指導御養育の程伏して御願申上候

先は不取敢御禮旁々御願ひまで

草々敬具

(同 上)……三

拜啓今般御陰を以て 拙兒入園御許可に相成り難有御禮申上候老ての末子にて我儘に育上候故定めし御教育上御困難の御事と推察罷在申候若しも園規に背き候様の行爲有々候場合は御遠慮なく御鞭撻被成下度御願申上候今迄の不規則なる家庭の教育より正しき生活の第一歩に進み候事は本人の將來の爲め如何斗りか幸福の可有之偏に貴園の賜と愚事諸共大に感謝罷在申候貴園より着園の模様御報告に接し直ちに御禮狀可差上の處 朝は六時に店に出張夜分九時過ぎ歸宅の有様にて寸暇なく乍存御無沙汰仕り候段不惡御洞察奉願上候 先は御禮旁申上度如此御座候

敬々

(入園當初兄より兒童へ)

汽車が出るときメソソ泣いた者があつたそうだね、何と云ふ意氣地無したらうね、泣く必要が何處にあるだらうね、キツトその子は海水浴の面白い事も繪のやうに美

ついで海の夕景色もそして體の丈夫になるといふ事も知らない子だらうよ、それに引きかへお前が非常な元氣で出發した事を聞いて兄さんも大變安心したよ、兄さんがこゝれまでよく話した事を守つて一日も早く頑丈な體になつて歸つて来る事を祈つて居るよ、しばらくの間は家に居た時と勝手がちがつて窮痛を感じるかも知れないが、それもホンの一時だよ、慣れるまでだ、友達が出来ると却て面白くなるだらう、呉々も云つて置くが親に心配を掛けるやうな手紙は禁物だよ、來月は兄さんが面會に行くよ、さようなら

(入園當時父より兒童へ)

只今、學園の先生からくはしいお手紙をいただきました汽車の中で元氣がよかつたことや、おいしいおべんとうをいたゞいたことや舟にのつたりしたこと、湯にはいつておそろひの洋服を着たことや、先生のお話、お友達とのちかづきなどが、すんで波の音を聞きながら、靜かにゆめをむすんだこと、庭内の散歩から教室でのおけいこ

の事までくはしくていねいに書いてありました、家中のもののはうれし涙でよみました。

先生方のおいひつけをよく守ることは、もちろんお友達にはしんせつに仲よくし、運動もし、勉強もして、りつばな體をきたえ上げて、りつばな人になるやう、せいぐつとめなさい氣候のよい、空氣のよい海岸でりつばな學校で、やさしい先生や、かんごふさんのお世話になつておいしいものを喰べたり、勉強したり、運動したりしてゐることを家中で、うらやましがつてゐます。さやうなら

父より

××どの

(來園面會後の挨拶)……一

拜啓先日は大變御邪魔致しました、種々御親切に御もてなし下さいましてまことにありがたう存じます、御陰様で一日楽しく子供と暮らさして頂きまして互に心から満足して歸りました。

四圍の風光に先づ魂を奪はれました、私共は親しく園内

を拜見いたしましたして、聞きしにまさる立派な御設備に驚嘆しました、勿體ないと思ひました、涙ぐましい感激が胸にこみあげてまゐりました。

妹の×子が『私もこゝへ置いて下さい』と申すのが不思議でも滑稽でもないと思ひました、私自身も先生が勤まらなげりや何かに使つて頂いて一生此處で暮らしたいとさへ思ひました、吾々クラスの病兒を是れ程行き届いた愛護の手に委ねることが出来るだらうかと川添ひの路を歸り乍ら云ひますと逆立しても出来ないよ××さんが感慨深く申しました、歸りの車中に落合つた親達が一つ心で語りました。

子供をお願もしまして以來一宮に大きな親戚が出来たやうな氣持がしてゐましたが、今度行つてまゐりましてから、その念が一層切實になり故郷に寄せるやうな親しみ懐しみが斷へず御地に向ふやうに覺えます、兒童にとりましては尙更らること、本當の意味の搖籃としてどんなに深い印象を刻みつけますことか、洵に生涯心の糧詩の

種となつて、彼等の生活を豊かに彩ること存じます。
先生 私は×子の持病に永い間苦しい経験を背めた親と
しまして感謝の心を申述べます外に一言の申分御座いま
せん。

特殊な病氣を持つ子供だけに特外の御配慮御苦心を賜は
ること、御察しいたしまして恐縮に堪へません。

諸先生方にも一々御挨拶申上ぐべき筈で御座いますが差
當り失禮いたしますから、恐入りますが、どうぞよろし
く御鳳聲を御願申上ます。

(同 上)……二

先日は御多忙の所へ年寄り二人で参上致しいろくとお
世話様に成り其の上ならず、御馳走まで頂きまして誠
に有り難く厚くお禮申上ます、折角参つたので御座いま
すから皆様にお目にかゝつて御挨拶申上げたいと思ひま
したが、お話が始まるとの事で先生方は皆お忙しい様で
御座いましたからお目にかゝらず失禮しました、×××
は哀れな子供で御座います、幼い時に母親に死別れ繼母

の手に育てられたのですが、眞身の様には参りませんの

で年寄りが不憐がつて、免倒を見て居りましたが、どう

も身體が、弱々しいので案じて居りましたところ、學校

の先生の御紹介で學園の方へお願ひしましたが良いと申され

ましたのでお言葉に甘へてお願ひ致しました、身體が弱

いせいで御座いますか、頭の働きがにぶいので、學校の

成績もあまり良くないのです、あんな子供をお世話下さ

るのは容易の事では御座いません、さぞお骨が折れので

御座いますやうに、あの様な御親切なるお取扱ひ方誠に

恐入ります、年寄りも喜んであのやうな取扱ひ方は家庭
では、とうてい出来ない事なので、願てもない有り難い
事だと申して喜んで居ります、あの様な子供を、さぞ御
迷惑では御座いますやうが哀れな子供で御座いますから
何分宜敷くお願ひ申上ます。
御地は閑靜ではあるし學園の設備も完全に出て居りま
すし先生方の御親切なるお心盡しで遠からず壯健になる
事と思つて楽しみにして居ります。

弟にあひに

横浜市南吉田小学校

尋四 松 宮 種 子

私の弟は今一宮の學園に行つてゐる。昨年十一月二十五
日に別れてから一度もあはないので、三月二十五日に家
中で行つた。汽車にのつても早く弟を見たいと思ふ
と、汽車の走るのがかばかにのろい。お父様にうかがつた
ら『またまた』とおつしやる。

やうやく一宮へ着いた、停車場から少し行くと川がある
舟で行けば學園の門まで行かれるが、私たちは歩く事に
した。川岸は松林の中を通るので景色がよい。十町ほど
行くと門前へ出た。入口から入つて、先生におあいさつ
をして、ひかへしつに待つてゐると、弟が先生につれら
れて入つてきた。少し見ない中に大へん大きくなつたり
太つたやうに見える、弟はしせいよくおじぎをした。お
父さんもお母さんも『こんにちは』と云つたきり、しば

らくなんにもおつしやらない。私もなんだかうれしいや

うなかなしいやうで、むねが一ぱいになつて、ぼんやり

立つてゐた、弟も皆のかほをかわる／＼見てゐる。お母

さんが『バスケットの中から本を出してお上げなさい』
と云はれて、はじめて氣がついて出してあげた。弟はよ

ろこんでよみはじめた。
しばらくたつと食事の知らせがきて、生徒も一しよに食

堂へ入つた。食事のとき小さい弟がおはしで『まん、ま

ん』といひながら、おちやわんをたゞいたので、皆が私

の方を見て笑つたので、はづかしくてかほが赤くなつた
一時間ばかりたつて、私たちがかへると云つても、弟は

いやなかほもしながつた、一人のこして來るのが、かは
いさうでしかたがなかつた。こんどかへつたら、前のや
うにけんかをしないで中よくしようと思つた。(『兒童文
選』から)
(家庭より學園へ)
拜啓 只今御學園の御近況御知らせ下され、暴風雨の御

見舞まで頂き誠に有り難く心より御禮申し上げます、病弱な子供を、遠方まで御世話御願ひ致して居りましても、何から何まで行届いた、御世話を戴き、些の心配もなく過ぎして下さる次第事毎に有り難く感謝致しております時に子供からの手紙にも元氣に暮して居る様子で實に喜ばしく存じます。

誠に御禮の言葉もありません、色々一人倍御面倒な事と存じますが、今後とも何分宜しく御世話下さいます様偏にお願ひ申し上げます。

右取敢ず御禮旁々御返事まで

匆々

(兒童退園の通知を受けて)……一

拜啓 却説愚息××儀約一ヶ年の久しき間御懇切なる御訓陶と御慈愛深き御養育とを蒙り御陰を以て健康も舊に倍し、今回、恙なく退園の光榮を得候段誠に有りがたく只管感謝の外無之候、退園後は特に御教諭に従ひ一層健康に努力いたさせ申すべく、いつの日か萬分一の御恩報じを致し度くと夫のみ心に掛り居り候、来る××日には必

ず参上引取申すべく、何れ其節拜眉萬々御禮申上べく候へ共不取敢御禮を兼ね御通知まで如斯に御座候 敬具

(同 上)……二

謹啓 貴園益々御隆榮の段大賀の至りに存上候、扱て八月三十日附書翰を以て永々御寵恩を蒙り、其御陰にて本人××も達者となりたるに付退園せしめらるる事と相成り候由御通達に接し喜んで迎へに参るべきが當然に有之候處實は拙宅は去る年大震災害直後に限りある極めて狭き敷地内に堀立同様なる家屋を建築し多くの家族と共に住居致し居る次第の處、攝生を執る事すら能はざる狭くるしき家屋内に多勢居住する關係か夏向になると必然に病者を出すと云ふ状態にて本年も一人子供が病氣を致し醫師の注意に依り二人親類へ預け居る様な事情に有之然る處頃日秋向の今月中夏の暑さにも勝る程に當地は炎熱に御座候折角丈夫となりたる者を連れ歸りて又候健康を害する様な事ありては誠に遺憾此上もなき儀に付甚だ勝手が間敷儀にて何とも恐縮の至りに有之候得共今少しく

時候の冷しくなるまで當分の内御留園相願度候に付茲に事情を具陳して只管御願申上候

(同 上)……三

拜復○月○日付×子退園の事につきましての御書面拜誦いたしました、一も二もなく御差圖に従はねばならぬ筈で御座いますが、御陰様で効果の著しいのを見まするにつけ、もう少し置いて頂きたい切な願を抱いて居りますのが叶ひますまいか。

今までの成績によりましてもう半年位御世話が願へましたら根治とまでまわりませんが、もつと抵抗力の強い身體になるまいかと慇懃か無智か云ひ知らぬ未練を感じます、自分本位に勝手な願をいたしました恐縮の至りに存じますが、以上卒直に一家の念願を申し上げまして御明断を仰ぎます。

(同 上)……四

拜啓 其後永らく御無沙汰致し、誠に申譯けありませんあしからず御許しを願ひます、扱て御手紙拜見致し、あ

りがたく御禮申し上げます、御報知によれば××子退園致させ下さること永々御世話様に相成り厚く御禮申上ます、次に××子儀を引取りに参上致す可きが本當なれども、甚だ勝手ながら誠に申譯けも御座いませぬが家事の都合上貴園の御書面にあまえて兩國驛まで、引取りに参りますから、何かと御手数をかけて誠に申様も御座いませぬが、兩國驛まで、御送りを願ひます。尚ほ着物は其まゝにて御願ひします、右御禮旁々御通知まで

草々

(退園兒童の學校より)……一

殘暑酷しき折柄益々御壯榮奉慶賀候陳者本校兒童八名永らく御世話様に預り御陰様にて皆々立派な身體の所有者となり恙なく復校仕り候間御安神被下度略儀ながら先生御一同様の御指導御盡力に對し謹みて感謝し奉り候

頓首

(同 上)……二

本校兒童三名長期間御高配を蒙り御陰を以て何れも壯健

頓首

なる身體を造り歸還致候本日夫々再入學手続きを了候間
御諒承成し下され度先は御禮券々御報まで

(兒童退園後家庭より)……一

謹啓 過日は參上失禮致し候、扱て此度は××事實に容
易ならぬ御教養にあづかり御陰を以て見違へる程の身心
成長仕り候段は全く諸先生の御丹誠によるものと家族の
みならず親戚一同感謝の辭も御座なく謹て御禮申上候

敬具

(同) 上)……二

拜啓 残暑堪へ難き折柄皆々様益々御健祥の段何よりの
義と御祝し申上げます、陳者×子儀永い／＼間御親切に
親身も及ばぬ御訓育難有厚く御禮申上げます、以御陰驚
く程丈夫に成人して元氣もよく大喜びで本日午後二時半
歸宅致しました肉もしまり、血色もよくはちきれそうな
元氣、誠に喜ばしく心から厚く／＼御禮申上げます、本
人よりも御禮申上ぐ可き筈ですが、今日はいうれいので
飛廻つて居ります、落付きましてから御禮申上げます、

右御禮まで

(同) 上)……三

謹啓 貴園御一統様益々御清穆の段奉賀上候、陳ば愚娘
××事貴園に御厄介中は一方ならぬ御懇情を蒙り御陰様
にて以前とは打つて變りし健康振りに私共兩親は勿論近
所隣りの者等まで此上なく喜び申候是れ偏に貴園の御高
恩と深く感銘致居る次第に御座候右不取敢御禮まで

早々

(同) 上)……四

前略先日十日は待ちに待つてゐました、元氣な太つた子
供が御親切な諸先生に連れられて歸つて参りました、ほん
とうに／＼有難う存じました、この養育して下さつた厚
い御恩はいつまでも／＼忘れる事は出来ません、まこと
に有難う御ございます。丸九ヶ月の間我子の様に愛して
下さいまして前にも打つて變つたこの發育振りを見まし
て涙が流れます、何といつて御禮の申上げ様も御ざいま
せん。

今は又相變らず元氣に以前の學校に通つております故他
事ながら、御安心下さいませ様御願ひ申上げます、一度

こちらが又改めて參上御禮申上ぐる筈で御ざいますが、
何分家事上の都合が御ざいますので勝手御無禮とは存じ
ながら御手紙で以て御禮申上げます。

子供は家に歸る前までは家をなつかしんでゐましたが歸
ると又學園が戀しくなります様子であんな広い場所から
こんな狭ま苦しい家に置く事が何だか可愛想の様で御座
います。

(同) 上)……五

拜啓 ××事永々一方ならぬ御せわ様に相成難有存じま
す、昨夕方迎えのものにつれられて無事歸宅致しまし
た、昨年〇月兩國驛に見送りました時に引かへ血色もよ
ろしく元氣に肥え太り、只今歸りましたといふ姿を迎え
て一同豫期以上の元氣にびつくり致しました。永い間の
諸先生の日夜御配慮を思ひ並大抵の御骨折ではなかつた
事と今更ら感激に堪えず御厚情の程厚く／＼御禮申上ま

す。

××もなつかしき樂園一宮學園を思ひ出づるまゝ、明暮學
園生活の御得意話に花咲かせております、そして弟妹や
皆のものらをうらやましがらせております。

種々の行届きたる學園の設備萬端を開きましては本人が
まだ歸りたくなかつたと申すも當然と御禮申して居りま
す、諸先生方の御心からなる御親切を幾重にも御禮申上
げます。

退園兒童より

杉枝喜七郎

センセイ ボクハ ブジニ ウチヘカヘリマシタ オト
ウサンモ オカアサンモ ミナ ヨロコンデイマス コ
レモ ミナ センセイノ オカゲデス カヘツテモ ガ
クエンニ イルキモチ デス センセイ オカラダヲ
タイセツニ サヨウナラ

鈴木和子

先生 長い間 おせはになりました 私はず日の二時半

にこちらへつきましたから ごあんしんください。

おとうさんや、おかあさんは丈夫になつたといつてよろこんでおります、又近所の人も丈夫になり大きくなつたといつてほめてくださいました、みな様によろしく、さようなら。

小 梶 順 平

長い間大變お世話になりました、ありがたうございまして、厚く御禮申上げます、歸りの時には、わざわざお見送り下さいましてありがたうございます。

半年餘り心から楽しく暮らせてくれた、學園の空気をなつかしく思ひ出しております、父や弟妹に迎へられて夕方歸りましたら、家の人々は大變肥え太つたといつてよろこんでくれました、毎日學園の話が、出ない日はありません、これから學園でうけた御恩を忘れないで一生懸命勉強します、そして又先生方に、お目にかゝる日を楽しんでまつてゐます。

うちへかへりし日

淺田みね子

さびしい、さびしいとおもひし、うちに、ともたちもできて、あめの日もかせの日も、たのしく、くらしした、かくるんにも、きょうだいのようにしてゐたともたちにもわかれ、せんせいたちに、おくられて、すみなれた、がくると、わかれるときは、なんとも、いへぬきがしました、きしやにのり、しほうの、けしきを、ながめながら、とうきようにおりておぢさんのうちへ、とまり、あくる日なつかしい、よこはまのうちへかへりました。おとうとや、いもうとは、ひじように、よろこんで、わたくしをむかへてくれました、おかあさんは、たいへんよろこんでおほきくなつたのには、びつくりしました。ばんにはともたちのところへゆき、がくるとのはなしなどをして、にぎやかでした、ひさしぶりで、なつかしいうちで、ねるんだとおもふと、うれしくつて、はやくねら

れませんでした。

灰 田 た き

永い間ありがたうございました、父さん母さんも、たいへんよろこんでおります。私も、おかげで家へかへれて毎日學校に通つたり、又おだいどころのお手つだひをしてあげます、そして妹をあそばして仲よくあそびます。ことにしんせきの叔父さん叔母さんは、おたきさんは一宮へいつてから、さいぶん、おとなしくなり、えらい子になつたねと私のことをほめて下さいます。それもみな先生方のおかげだと、一宮のことを、いつまでも、思つておりますみなさま、お丈夫でゐて下さい。さようなら

安 田 信 子

私は學園にゐる時は、はやく家へ歸りたくて泣きたす時も、何とありません。

家へ歸る日は、教室で勉強をしてゐても、早くおかあさんが迎ひに來ればいゝと、そればかり思つてゐました。その時安藤先生が、矢澤さん大堀さん安田さんと呼んだので

もう心が一ぱいになつてゐました、應接室へいつて見る

と、お母さんが來てゐました。宿舎の荷物のおいてある室へ行つて、吉田先生が、あたまをゆつて着物を着替へさせて呉れました、講堂で園長先生が、身體のことをお話し下さつてから、いよく歸ることになりました。賀來先生と古場先生が、舟で、ていしやばまで、送つて下さいました、キツプを買つて貰ふて、待つてゐると、間もなく、汽車が來ました。汽車に乗りまして、また、先生は見送つてゐて下さいました、汽車が發車すると先生は、こもりを、ふりました、そうするとお母さんがそれ信ちゃん、よんだので、なんだと思つて見ると、先生は一しようけんめいにこもりをふつてゐましたから、先生さようなら、といゝました、先生もさようならと云つたでせう、先生は見へなくなるまで、見送つてゐました。私もあとをふりかへりくしてゐました。

汽車を下りたとき、兩國だと思つて、母さん兩國さいぶんかはつたねと言ひましたら、お母さんは笑ひながら言

ひました。こゝ兩國ではないのよ、錦糸堀よといはれたので、気がついて見ると、なるほどちがつていると気がついて私も思はず、ブツとふきだしてしまいました。家へ歸る道が、ちがつているので、聞いて見ると、家は千田町へ越したのよといはれたので、びつくりしました。

千田町へ行くと、友達が少ないので、いつも弟と遊んでるます。ときどき學園のことを思ひ出して學園がこひしくて泣きたくなるときもあります。

浅野嘉一

御手紙ありがとうございます。どこまでも僕の身體を御案じ下さつてありがとうございます。先生のことはちつとのことでもわすれません。家へかへつても體はどこも悪くありません。朝五時半にきてお母さんのお手傳ひをしたり、おつかいをします。又學園の先生のおかげで手助ができますとよろこんでゐます。學校へまいりますと、僕の先生が學園のお話をしてくださいと、いはれた

ので僕は學園のお話をしましたら僕の級の生徒が、僕もそんないゝところへ行きたいといひました。それからあいだには、なにもたべませんから御飯は、をいしくいたゞけますから、御安心下さい、先生や生徒の方によるしく、それから横濱へ、おいでになりましたら、僕の家へおより下さい。さようなら。

一宮學園の思出

長澤しづ子

ワタクシハ ガクエンニ オリマシタ コトヲ マイニ
チ オモイダシ センセイ タチヤ オトモダチノコト
ヲ カンガヘ テ ウレシイ ヤウナ サミシイヤウナ
ココロモチガイタシマス イマニ 大キクナツタラ
オトウサント イツシヨニ 一ドアソビニ マイリタイ
トオモツテキマス。

小林 豊

今日は學園から家へ歸つてからの思の出ことを少し書い

て見たいと思ひます。先月七月は東京から、お父さんが迎へに来て末井君や森君や、西村君など大せいで學園の前から小舟に乗りました。時は、嬉しいのか、かなしいのか、なんとなく、むねがどきどきして居ました。僕が學園に居ります時は、森谷先生が、やさしかつたのが、幼年俱樂部で讀んだ女神のようです。家へ歸つて來ても先生の事ばかり思出します。そして今考へると學園に居た時のことがたのしくてたのしくて、安藤先生が學園に居たことは一生わすれぬとおつしやつた事を思出します。朝起きて、あの廣い食堂で、御飯をいただく時の事を思ひ出します。僕はまた學園の事はいろいろありますがあんまりかくと一日や二日では書ききれませんから又こんどいろいろ書いて出します。

富士日出夫

大そう涼しくなりました。先生方には、おかはりはありませんか、僕もこのあいた家へ歸つたようですが、もう一ヶ月になります、僕は學園の方がよほどよいと思ひま

す僕の家の方は區劃整理で道もなく思様にあそぶところもありません、僕は學園がなつかしくて、したがありません、毎日思ひ出さない日はありません、これからだん／＼さむさにむかひますから、皆様御體御大切にしてください、では左様なら。

岸本芳一

學園から歸つてから、學園でした事がしきりなしに思出されます。學園の講堂や、雨天體操場にはどんなものがあつたか、裏の島にどんな野菜があつたか、友だちにはどんな人が居たか、こんな事がゆめで見たこともあり、又思出した事もあります、いつか學園へ行かうと思つて居ります。

前田政次郎

拜啓この頃はたいそう朝夕の風が身にしみる様になりましたが、先生様初め皆様には何の御變りも御座いませつか、僕も學園から歸へつては、からだもたいそうじょうぶになりました、又先日は色々とお心配下されて御手紙

下さいまして有難く厚く御禮申し上げます。僕も學園から歸つてから時々先生様や皆様の事を思出した日があり、只今は三河島の兄さんの所で朝の内は勉強したり、晝は赤坊を遊ばせたり、兄さん姉さんの御手傳などをし、夜は夜學へ行つて勉強して居ります。來年の春頃から少しづつ兄さんのを手傳をしながら仕事をおぼへて早くお母様や、兄さん、姉さんや皆様に安心をさせる様に毎日一生懸命になつていきますから、先生も御安心下さい。先は御返事かたく御禮申し上げます。左様なら。

竹田房子

私が、母と、汽車にゆられながら、なつかしい家に歸る途中、窓から四方の林や、きれいな小川などを、ながめた時はほんとうに、あの一宮學園の楽しかった日や、あの松林の中で面白く遊んだ事を思出して、何となく、學園と別れるのがかなしい様な氣がして涙が出ました。家へ着いた時、皆が私の眞黒な顔を見て、すいぶん笑はれましたけれど、この丈夫になつた姿を見てほんとうに

先生方の御恩だと喜んでゐました。

今日も學校から歸つて、お母さんからなつかしい、學園からのお手紙を見せて、いたゞき又地曳網を引いて楽しかった事や海水浴をして面白かつた事を思ひ出しました。東伏見宮妃殿下が、學園にいらした事は、永くわすれられません。今度の夏休みにはきつと行つて見たいと思つてゐます。

末井敬之助

僕は學園生活を、どうしても、忘れられない、家に歸つてもなんとなく、もの足らない、氣がしてさびしい。學園で皆と一しよに遊びまはり、先生も、生徒も、何のへだたりもなく大勢一家族といふ楽しみでした。冬のお正月の催し、三月の雛祭、五月の鯉のぼり、夏の海水浴、御盆の魂まつり、燈籠流しや、活動寫眞、時々、の童話や餘興など何一つ楽しくないものはなかつた、今まさしくと目に見えるやうだ。あゝ今一度學園生活をしてみたい、しかしもう二度と行かれぬかと思ふと何とな

く淋しい思ひがする。

僕も一生懸命働いて學園の名を、けがさぬやうにし様と思ふ。

大屋糸子

學園の方々と別れてから、もう一月になります。學園に居た時代が全く私の樂天地でした、あの面白かつたピンポンの仕合びや、テニスをやつた事等を回想して見ると『もう一度あのやうに愉快に遊び廻り度い、けれども今は家にゐるのだ』と思ふとなつかしいやうな又悲しいやうな氣持ちになる。學園に生活して居た時は、何と言はれても自分の家が、こひしくてたまらないのでした、川邊に立つて別れの言葉をかわす時はたゞ家に歸るうれしさで胸が一ぱいで物を云はうとしても聲が出ない位でした。が歸つて來て見ると歸つた方の云はれた通り私も學園がこひしくなつて参りました、私はいつも悲しい時や、涙ぐましい時はきつと學園で習つた唱歌や、遊戯等で面白かつた事を考へては氣を取直してあります。

退園兒童大會の感想

兒童大會の通知

工藤 幸正

なつかしい、學園を去つてから、早や五月になります。學友と一度、お會ひしたいと思つて居りましたが、遂に其の日が來ました、僕が學校から歸つて來て、あいさつをして、格子を開けて中に入ろうとしたら、お母さんが『學園から手紙が來たよ』とおしやいましたから早速手にとつて手紙を読んで見ると、一月二十六日(土)の午後〇時半から學園を退園した東京のものが、東京市の小石川隣保館に集つて會を催します、又當日のプログラムや隣保館までの道案内の圖も入つてゐました。私は直ぐ出席しますと學園へハガキを出しておきました。そしてその日を一、二日千秋の思ひで待ちました。……

岡田 重徳

僕は退園後、學園の事ばかり思つてゐました、先生やお

友達がなつかしくてなりません、そこへはからずも學園からの手紙は、僕をどんなに喜ばしたでしやう。その日の來るのが待遠しくてなりませんでした。……

まちどろしい二十六日

淺野 俊子

學園からのお手紙によると二十六日に懇親會がある事を私は知りました、もう其日がまちどろしくてくたまりませんでした。二十五日の晩、私は床についてからも學園に居た時の事を思出すといろくの事が目の前に浮んで來て、なかくねむれませんでした。その内に私はやつとねむつて、學園の夢を見て、目のあいた時には朝でした、私はもう午後がまちどろしいございました。

隣保館に行くまで

野口 勢人

チン／＼といふ電車に乗つて、小石川へとゆられながら連れられて行く島澤さんと、小林さんと、私に、小林さ

んのお父さんの四人、幸原さん達は、今頃はなつかしい先生達とたのしく顔を合せてゐるだらう、まあ、なんとのろまな電車だらう、なんだか、今日に限つて電車がすこしのろいやうな気がする、そのうちに、小父さんが『どこでおりますか』と問ふたので、小林さんが、學園からいたゞいた案内圖を開いて見ると、大塚辻町が一番近いやうだから、辻町まで乗つて行くことにした。

あゝ隣保館！ 考へだすと、なんだか、だんだん／＼うれしさがこみ上げてきた、先づ第一番に武田園長さん、津田先生、又何々先生と次から次へ、サテ今度園長さんがおかほりになつたとのことであるが、重田先生、もしやするとあの今までのお醫者様ではないか、などと電車の中で懸賞問題が出た。

間もなく大塚辻町！ といふ車掌さんの聲と共に電車を降りて、すこしもどると、あの目的の隣保館があつた。かけ出してみたが、急に氣まりが悪くなつたので、小父さんの後にかくれてしまつた、すると向ふの方で、誰か

が手まねぎをしてゐられる、だん／＼近づつて見ると、森谷先生と田中先生であり、えりまきを取り久ぶりに先生とあいさつをした、先生も涙ぐましい眼をして、いろくとおたづね下さつた。今なつかしい會場の入口をまたいだ。

隣保館にて

島澤 まさ

……間もなく、講堂へ入つてゐて、いろく／＼と先生方が私達に向つて講話をして下さる、お顔にまで立派な精神のこもつてゐらつしやる事が、はつきりと、よくあらはれて居た。私はその度に顔をちつと見つめて居た。又なつかしく親しみのある、友達の顔を見るとどの人もく／＼皆晴々してニコやかな顔を見せ、お互に學園の思出についていろく／＼と語合つてゐるのを聞いて、私もこう思つた、『よほどあの人達も私達同様に、學園での幸福な生活をしのんでゐるんだな』と。

武田先生の御話があつたとき私はこう思つた。『全く學園の方々は皆心が一致して厚い同情心を、お待ちになつてゐる、私は一人前になつたら、きつと立派に御恩返しをしやう又この六年は優等で卒業したい』と自信の念を同時に強くした。

二十六日の思出

渡邊 義次

二十六日の朝、そうだ、僕はなんだか、うれしい／＼と思つたら、一宮學園の在京兒童大會があるのだ。學校も御飯もそこ／＼に兄さんに、連れられて出かけた、電車にあまりのらないせいか、大塚に十分位で來たやうな氣がする。ちよつと向ふを見ると大きくけいじが出て居るので直にわかつた。田中先生と小菅先生が立つていらつしやつた。おじぎをすると『よく來ましたね』といはれた、僕はなんとなく學園に行つた時を思ひだす、玄關に武田先生や重田先などが御見えになられた、先生方の丈

夫なお顔はいつも親切で、涙が出る、椅子に落ちついて

間もなく武田先生の御あいさつ、社会局の大野部長さんの御訓辭、映畫『アンクルトムスキヤピン』にうつつた黒坊の目玉、かわいさうなトムスちいなど思はず涙にさらはれる、すこし休だその間お莫子が出た、おいしかつた。次に『子供鉢の木』のお話になつた親孝行な子私もその萬分の一でも、まねをしやうと思ふ、いろくんと先生方の御注意などあつて散會して歸るとき先生方は下足のお世話なして下された、なんとなく頭が下る、隣保館を出たのが丁度五時、歸りの電車は、とてもものろいやうな氣がした。今日は楽しく、うれしくゆかいに遊ぶことが出來た、その上に先生方や友達に會つて話合ひました一人の友達にあふのも、よろこばしいのに一度に大ぜいの友達に會つたので、僕はどんなにうれしいと思つたでせう。これも先生方のおなきけと存じます、もしまた此のやうな會があればいの一番に出席するつもりです、この次何日、どこにあるかと思ふとむねがおどつてなりま

せん。

末井敬之助

僕は、當日の集りを一日千秋の思ひで待つて居た、いよく當日となつて先生やお友達と逢つた時は、思つたより以上にうれしかつた、また皆さんと學園の生活にはいつたやうな感じがした。諸先生のお話も有り難く、餘興の活動寫眞や趣味講演『子供鉢の木』など觀たり聞いたりに實に愉快で學園で集りをしてゐるやうに感じられ一日を實に愉快に暮した、この一日は僕のわすれやうとしても、わすれられぬ日だ、あゝ楽しかつた此一日よ。

昭和五年三月十日印刷

昭和五年五月~~五~~^九日發行

(非賣品)

千葉縣長生郡一宮町海岸

編輯所

一宮學園

(電話一宮六九番)

東京市麴町區大手町一丁目

社会局分室内

發行所

財団法人 兒童愛護會

(電話九ノ内四七二四番)



